

少年消防クラブニュース

一般財団法人
発行/ **日本防火・防災協会**
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-9-16
(日本消防会館内)
TEL 03(3591)7121 FAX 03(3591)7130
http://www.n-bouka.or.jp
(季刊・年4回発行)

印刷/株式会社 近代消防社



受賞団体代表による謝辞



秋本敏文日本防火・防災協会会長 祝辞



大石利雄消防庁長官 挨拶

3月25日(火)、全国の少年消防クラブ員やその指導者など約350人が参加し、総務省講堂において「少年少女消防クラブフレンドシップ2014」が開催されました。

少年少女フレンドシップ2014 消防クラブ

これは、少年消防クラブの育成発展に寄与するため、優良少年消防クラブ及び指導者の表彰を行うとともに、少年消防クラブ員の交流を通じて、その活動の一層の活性化を図ることを目的として、総務省消防庁、都道府県などが構成する全国少年消防クラブ運営指導協議会(会長・消防庁長官)が主催し、昭和29年から毎年行っているものです。

今回は、第1部「表彰式」、第2部「アトラクション」、第3部「講演」という構成で実施されました。



特に優良な少年消防クラブ表彰

最初に、第1部では、大石利雄消防庁長官から主催者としての挨拶があった。その後、一般財団法人日本防火・防災協会秋本敏文会長が祝辞を、受賞団体を代表して福岡県新宮町の相島少年消防クラブの三船七海さんが謝辞を述べました。

第2部では、「都民と消防の架け橋」として演奏活動を通じて防火・防災の意識向上と協力を呼びかけている東京消防庁音楽隊による演奏が行われました。

第3部では、今年度から「災害のない安全・安心なまちづくりを」というテーマで、宮城県仙台市の北部に位置する泉区内の住宅地で、その東側には、地域の憩いの場所である「県民の森」の山林が広がる緑豊かな町で

歩坂町子供消防クラブが活動している歩坂町は、宮城県仙台市の北部に位置する泉区内の住宅地で、その東側には、地域の憩いの場所である「県民の森」の山林が広がる緑豊かな町で

〈表2〉優良な少年消防クラブ (31 団体)

都道府県	団体名
北海道	広尾少年消防クラブ
	発寒北少年消防クラブ
	もみじ台少年消防クラブ
青森県	中居林少年消防クラブ
宮城県	松島町立松島第五小学校少年消防クラブ
福島県	喜多方市立松山小学校少年消防クラブ
茨城県	久慈町少年消防クラブ
埼玉県	坂戸地区少年消防クラブ
東京都	麻布消防少年団
	千住消防少年団
	麴町消防少年団
	野方消防少年団
	高輪消防少年団
神奈川県	川崎市高津地区少年消防クラブ
富山県	高岡市立成美小学校少年消防クラブ
石川県	戸板子ども消防クラブ
岐阜県	粟崎子ども消防クラブ
	大垣市立北小学校少年消防クラブ
	関市立上之保小学校少年消防クラブ
静岡県	坂祝中学校少年消防クラブ
	大垣市立時小学校少年消防クラブ
	磐田市立豊田南小学校少年消防クラブ
愛知県	岡崎市立美合小学校少年消防クラブ
大阪府	和泉市幸校区少年消防クラブ
島根県	掛合小学校少年消防クラブ
岡山県	花尻少年消防クラブ
	城北少年消防クラブ
	美星小学校少年消防クラブ
福岡県	八女市少年消防クラブ
熊本県	八千把小学校少年消防クラブ
	御所浦小学校少年消防クラブ

〈表1〉特に優良な少年消防クラブ (19 団体)

都道府県	団体名
北海道	上仁頃小学校少年消防クラブ
岩手県	館・柳橋地区少年消防クラブ
宮城県	歩坂町子供消防クラブ
栃木県	足利市立第二中学校少年消防クラブ
東京都	板橋消防少年団
	本所消防少年団
	向島消防少年団
豊島消防少年団	
青梅消防少年団	
神奈川県	川崎市幸地区少年消防クラブ
富山県	富山市立西田地方小学校少年消防クラブ
石川県	砺波南部少年消防クラブ
	小松市少年消防クラブ河田班
福井県	本荘小学校少年消防クラブ
静岡県	磐田市立豊岡北小学校少年消防クラブ
京都府	京都市上京少年消防クラブ
岡山県	味野小学校少年消防クラブ
広島県	亀崎学区少年消防クラブ
福岡県	相島少年消防クラブ

〈表3〉優良な少年消防クラブ指導者 (9 名)

都道府県	氏名	団体名
青森県	田中 春美	福浦少年消防クラブ
福島県	小椋 幸則	三代少年消防クラブ
埼玉県	鈴木 英雄	坂戸地区少年消防クラブ
東京都	桜井 正	麴町消防少年団
	岡田 源治	三鷹消防少年団
	粕谷 正己	玉川消防少年団
	土屋 英夫	本郷消防少年団
	河合 弘之	足立消防少年団
福岡県	樺木 義治	糸島少年消防クラブ



総務省消防庁が実施している災害伝承10年プロジェクトの語り部による、東日本大震災における被災地の状況や、避難所での大人・子供それぞれの役割などについての講演が行われました。

その後、一般財団法人日本防火・防災協会秋本敏文会長が祝辞を、受賞団体を代表して福岡県新宮町の相島少年消防クラブの三船七海さんが謝辞を述べました。

第2部では、「都民と消防の架け橋」として演奏活動を通じて防火・防災の意識向上と協力を呼びかけている東京消防庁音楽隊による演奏が行われました。

第3部では、今年度から「災害のない安全・安心なまちづくりを」というテーマで、宮城県仙台市の北部に位置する泉区内の住宅地で、その東側には、地域の憩いの場所である「県民の森」の山林が広がる緑豊かな町で

3月25日(火)消防庁長官より、表彰旗と表彰状(楯)を代表2人が受賞し夕方には幸消防署で1年間お世話になった署員の皆様へお礼と報告をしました。

昨年4月に川崎市幸区子ども会連合会から、少年消防クラブの担当が南河原地区子ども会に決まったと連

者とは表1〜3のとおりです。今回の「少年少女消防クラブフレンドシップ2014」で受賞された少年消防クラブのうち、一部のクラブですが、寄稿いただきましたので、活動等についてご紹介いたします。



日頃は、地域住民に防火を呼びかける毎月1回の町内の夜回りや、町内会さらには連合町内会の防災訓練等にも積極的に参加しています。昨年は、6月に子供消防クラブ員の研修会を、夏には、花火の事故を防ぐことを目的に、消防署の方と一緒に町内の子供たちと花火の安全な遊び方の指導や呼びかけを行いました。また、春季火災予防運動の行事として、山火事防止の標語板を子供消防クラブ員が自由な発想で作成して、地域の「県民の森」遊歩道入口等に横断幕とともに掲出し、山火事注意を呼びかけました。

6月に幸消防署長、幸町小学校、南河原小学校の校

これからの、今回の受賞を今後の活動への励みとし、郷土愛の精神を忘れずに、「災害のない安全・安心のまちづくり」に貢献できるように活動を続けていきたいと思えます。

川崎市幸地区少年消防クラブ
運営委員長 青木 マチ子

絡をもらい、子ども達の募集を行いました。幸町小学校、南河原小学校から35人の子どもが集まり、運営委員8人、保護者の方々、幸消防署の方々との1年間の活動が始まりました。

た。消防局長からは、日ごろの継続的な活動が今回の受賞につながったものとお褒めの言葉をいただきました。





(1面から続き)
長先生をはじめ、幸区町内会連合会長、幸消防団長、幸防火協会会長、幸区子ども会連合会長、ご来賓の方々などたくさんの保護者の出席のもと、結成式を行いました。
その後、はしご車搭乗体験、ロープ結索訓練など防火防災の学習を行いました。
夏休みには在日米海軍横須賀基地にて消火、救助訓練を体験し、アメリカの消防車両を見学し、日本の中にあるアメリカの消防を学びました。

12月には川崎市消防音楽隊の素敵な演奏を楽しみ、音楽を通じて防火知識を身につけました。
川崎市消防航空隊ではヘリコプター「そよかぜ」を見学しました。DVDを見ながら航空隊についてお話を聞き、ヘリコプターの救助活動の仕組みを学び、子ども達もとても貴重な経験ができたと思います。

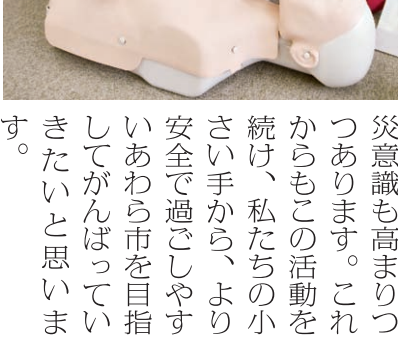
当クラブが活動しているあわら市は、人口約3万人で、福井県の北端に位置し、福井平野から加越台地にかけて広がる市です。平成16年3月1日、北陸有数の温泉のまちであった芦原町と、古来より越前の北の玄関口であり、芦原温泉や東尋坊などへの接続点となっていた、かつての宿場町金津町が合併し誕生しました。

子どもから広がる防災意識

福井県あわら市 本荘小学校少年消防クラブ
教諭 品川 裕紀

あわら市本荘小学校少年消防クラブは、昭和57年11月1日に発足しました。本荘小学校の5年生で毎年結成され、本年度は11名の団員で編成されています。
主な活動としては、年に3回の防火教室を行っています。消火器を使用するの消火訓練、消防ポンプ車からの放水体験、はしご車の搭乗体験など体験的なものから、119番通報の要領、応急手当の実施要領、住宅

少年消防クラブの1年間の活動で学んだことを良い思い出とするだけでなく、防火防災の意識を高め、子ども会行事や地域で、家族や友達を通じ、防火防災の輪を広げていきたいと思えます。幸地区少年消防クラブが結成されてから20年以上が経ちますが、今後も一人でも多くの子ども達が有意義な経験をし、成長してくれることを願います。



春と秋の火災予防運動期間中には、防火教室で得た知識を生かし、小学校の校内放送を活用して火災予防を訴え、他学年児童への防火意識の普及啓発活動を行っています。また、大型店舗にも訪問し、来客に対して防火チラシや防火ティッシュを配り、火災予防を呼びかける活動も行っています。平成24年度には、防災博士、管轄地域消防団、警察

このような防災教育により、子どもたちの防災意識は向上したようです。また、子どもたちが家族や地域のひとと防災について話し合う中で、地域の人々の防災意識も高まりつつあります。これからもこの活動を続け、私たちの小さい手から、より安全で過ごしやすいあわら市を目指していきたいと思えます。



味野小学校少年消防クラブが活動している倉敷市児島野は、岡山県の南部、瀬戸内海と竜王山に隣接した自然豊かな場所に位置しています。少年消防クラブは、味野小学校の4・5・6年生で構成されており、今年度は30名の団員で活動を行っています。

学校内で行うクラブ活動では、普段の学校生活で体験できないような、放水、消火器や消防ホースを使った消火訓練、ロープの結び方体験、ガス爆発の実験などの体験活動に意欲的に取り組むことができています。また、防火ポスターの作成や校内の消火設備の確認など学校生活に役立つだけでなく、団員以外の児童に広がる活動を行うことで、例年多くの児童がクラブに入団してきています。

「自ら考え、探究する防災教育」を目指して

岡山県倉敷市 味野小学校少年消防クラブ
少年消防クラブ担当 野口 泰記

福岡県糟屋郡新宮町の新宮港から7・5キロメートル、渡船で約20分の玄界灘に浮かぶ相島。周囲約5・6キロメートルの島の中腹に、相島を一望できる新宮中学校相島分校が建っている。全校生徒6名の離島の中学校に、昭和23年から67年間から引き継がれている、BFC(少年消防クラブ)がある。

福岡県糟屋郡新宮町の新宮港から7・5キロメートル、渡船で約20分の玄界灘に浮かぶ相島。周囲約5・6キロメートルの島の中腹に、相島を一望できる新宮中学校相島分校が建っている。全校生徒6名の離島の中学校に、昭和23年から67年間から引き継がれている、BFC(少年消防クラブ)がある。

山県消防学校へ研修に行き、放水訓練や煙迷路体験、地震体験など貴重な体験をさせていただいたいただき、子どもたちは目を輝かせて体験できました。さらに、消防訓練の様子を見学することもでき、消防士のみならずの動作や挨拶、力強さを目の当たりにすることで、消防士の仕事の重要さを実感し、尊敬の念をもつことができました。



このような防災教育や体験の中で、子どもたちの防災意識をよりいっそう向上させることができている。今後活動を工夫すること、友達や家族などと一緒に「自ら考え、探究する防災教育」を目指していきたいと思えます。

福岡県糟屋郡新宮町の新宮港から7・5キロメートル、渡船で約20分の玄界灘に浮かぶ相島。周囲約5・6キロメートルの島の中腹に、相島を一望できる新宮中学校相島分校が建っている。全校生徒6名の離島の中学校に、昭和23年から67年間から引き継がれている、BFC(少年消防クラブ)がある。

このような中学生が実践しているBFC活動は、「自分たちの島は自分たちで守る」という合い言葉を生み出し、島民から高い支持を得ている。

相島は自分たちで守る

福岡県新宮町 相島少年消防クラブ
相島少年消防クラブ代表 酒井 博幸

最近では、「海岸清掃」や島の名所に観光客を案内して説明する「島ガイド」などにも取り組んでいる。いつまでも、この歴史と伝統があるBFC(少年消防クラブ)を相島に引き継いでいきたい。

このような中学生が実践しているBFC活動は、「自分たちの島は自分たちで守る」という合い言葉を生み出し、島民から高い支持を得ている。

一人暮らしの高齢者の見守りを兼ねて島の全世帯を回り、手作りの「火の用心」防火ステッカーを手渡しで配る、「一斉夜回り」を実施している。



2月9日(日)に東京で開催された「少年消防クラブ指導者交流会」での講演内容をご紹介します。

演題 「リスクウオッチ」

少年消防クラブ活性化推進会議専門委員 長谷川 祐子

今、少年消防クラブの意義は？



ています。忙しさに紛れ子供と向き合うことを避けている大人たちが沢山います。忙しい大人たちに無視されている。多くの子供たちです。

昭和の時代、私たちの周りには常に父、母、近所の大人がいました。皆が社会の宝である子供たちに関心を寄せており、悪いことをすれば近所の大人は誰の子であれ、叱りました。ところが近年、社会のルールを教えてくれる人がいなくなっ

なぜ子供への指導者が必要か？

この事業は社会貢献のミッションです。少年消防クラブを通じた少年育成プログラムが子供たちを育てていきます。子供には、身近に目標となる人々として子供に係わ

てくれるリーダーが必要。指導者には間違っただ道に進まない明かりの役割があります。指導者

理を持つ市民を育てるために、多くの大人が世界

Staying Safe (ステイイング セーフ)

ステイイング セーフ ことです。

アメリカの学者が危機から逃れた人たち1万人を知って、自分に落ち着けと声をかけます。そして知識や情報を思い出し、今迫る危機が何であるかを知り、技術を使っ

Stop, Drop, & Roll (ストップ・ドロップ&ロール)

「止まれ、倒れる、転がれ」これはもし自分の洋服に火がついたらどうやって消すのかというプログラムです。キャンプファイヤーに限らず、火遊びや日常生活で起こったときに自分で対処できるように教えます。昨年も花火大会でのガソリンも

Great Escape (グレート エスケープ・大脱走)

就寝中、自分の家から出火したら自分で火災と戦うように教えます。寝室の扉は必ず閉めて寝ます。煙感知器の音が聞こえたら身を低くしてドアの前へ行き、ドアの向こうの火を確認するため、手の甲を使いドアを触り熱くないか調べる。もしドアが熱かったら、火が直ぐ側にきているのでそのドアは使わずに他の逃げ口(窓など)へ。高層階の場合は窓からシートを振り、助けを呼

Disaster Action Kid

5 (災害時活動する子供になろう) Risk Watch

プログラムでは、自分に襲い掛かる災害時の危機に対処できるように具体的に指導します。台風、地震、

竜巻、犬、不審者など説明しました。

また少年少女消防クラブが米国では沢山運営されています。私が出会った消防クラブ員は地域に貢献している、自分の事を誇りに思う」と話してくれました。

終わりに

少年消防クラブが子供たちに教えた自分を守る知恵、何か起こったときに必要な情報、技術は自分の命を守るツールとして子供たちの心に残りま

す。だから皆さんがやっていることは、今預かっている子供たち、今まで預かってきた子供たちの目や心に残っているはず

です。皆さんが少年消防クラブで実施しているのは子供たちに自分を守る翼を与え、芽を膨らませる仕事です。

一方的にやってみればかりで誰も褒めてくれないと思いかもしれない。でも、自分は何をやってるか知っているのは自分です。指導者の皆さんのお仕事に「誇り」をぜひ持ってほしいと思います。



少年消防クラブの活動

東月寒少年消防クラブ

命を守る防災マップ

北海道

災害時、どのようにして《自分》《家族》《友人》

《地域の人》の命を守れるのか！この地区の災害時に利用できる施設・設備(病院、AED設置場所、避難場所、防災機材置場、緊急時給水貯水施設、防火水槽、消火栓等)と人(消防署、消防団、警察署、自衛隊等)、地盤地層地質(活断層を含む)、海抜、危険な箇所(池、川、傾斜地)などを調査し、災害時の心得と準備を提案しました。



乙川明

時の噴火により10mの火山灰が堆積していること、この地域の真下に月寒断層、野幌断層が防災関係の地図上にはあるが、この断層はいつ出来たのか？」北海道大学、札幌市博物館活動センターへ行き調べた結果、260万年前の地殻変動で形成されたことが判明しました。

また、地図作成過程において、意味の分からない地名「ラウレナイ」「ウラウチナイ」があり、アイヌ語地名(北海道の地名はアイヌ

語から取得した例が多い)をアイヌ文化交流センターに問い合わせをし、教えてもらいました。

東月寒地区は1960年代から宅地化が始まり、以前の事を地区の古老から聞き取り調査をし、おもしろい話、びっくりする事柄などを教えてもらいました。

このように、クラブ員は次から次へと疑問が湧き、調査をし、その好奇心の旺盛さには驚かされました。聞き取り調査、資料調査等の折り、地域住民からえらいネ！感心ネ！頑張らなさい！等、色々励ましの言葉を掛けて頂き、クラブ員は嬉しさ一杯で、いつもニコニコ顔。

作品完成後、地区内小学校2校、消防署、区役所に寄贈させていただきました。作成日数も当初4〜5日での完成と見込んでいましたが、10日間延べ35時間も費やし、クラブ員は実に良く作成に励んでくれて、作品完成後「楽しかったー！」と言ってくれたのが指導者としては大変嬉しかったです。

《クラブ員のみんな、ご苦労様！ありがとうございます！》

吉川松伏少年消防クラブ

着衣泳訓練を実施

埼玉県

平成25年8月2・3日、宿泊活動において、大規模災害時における避難所での生活を疑似体験し生活の

不便さや最低限必要な物資等は何かを身を持って体験しました。また水の事故に対し「自分の身は自分で守

(4面に続く)

(3面から続き)

「ことを目的に着衣泳訓練を実施しました。」

各個人が実際に必要とする一日分の水分量を計測し、災害に備える水分量を確認するとともに、消防団所有の可搬ポンプを用いてホース延長から放水までの一連の流れを実施し、実践的な消火活動を体験しました。また、着衣に火がついてしまった時の対応や災害伝言ダイヤルの使用方法、



限られた時間内にどのような伝言を残したらいいのかなどクラブ員同士で話し合いました。

オリエンテーリングではチームに分かれ防災に役立つミニ知識を取り入れたミッションをクラブ員同士協力しながらクリアし、避難所生活と同様な空間スペースに段ボールを使用したの寝床作り、クラブ員達は避難所生活での協力し合う大切さを学びました。

練馬消防少年団

渡過・降下訓練を実施

東京都
平成25年11月17日(日)、練馬消防少年団(団長 内田博樹)は、練馬消防署において練馬特別救助隊の指導のもと、渡過・降下訓練を実施しました。



最初に準備体操をしっかりと行い、その後、訓練に必要な結索を練習し、いざ訓練開始。下からみるとそれほど高さを感じない訓練塔でも、実際に登ってみるとその高さに足がすくみ、中々足が

前に進まなかった団員ですが、他の団員からの声援を受けて勇気を振り絞り、無事に下まで降りることができました。

奥多摩消防少年団

横田基地消防署を見学

東京都
奥多摩消防少年団は、3月26日(水)社会学習で、福生市にある米軍横田基地内の横田基地消防署を見学しました。

奥多摩消防少年団は、3月26日(水)社会学習で、福生市にある米軍横田基地内の横田基地消防署を見学しました。軍事施設や滑走路などを管轄する横田基地消防署には、大規模な火災に対応できる大型化学車などが配置されており、基地案内担当者による説明を受け、最後には放水訓練を見学しました。



奥多摩消防少年団では、今後も様々な活動や訓練を通じて将来の防火防災の担



宝くじは、みなさまの豊かな暮らしに役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、いろいろなかたちで、みなさまの暮らしに役立てられています。

一般財団法人 日本宝くじ協会
http://jla-takarakuji.or.jp/